

てかりだけ 管内の百名山 「光岳」



千頭（てかりいづ）の山々を背景に、厳かに白く輝く光岩



ミヤマダイヤモンドソウ

タカネウスユキソウ

以前、この光岳にはもう一つの登山ルートが存在しました。それは静岡森林管理署が管理する寸又左岸林道を進み、林道終点からつり橋を渡って南の尾根伝いに光岳を目指すルートで、本州最南端のハイマツ林を抜けて正面に光岩を眺めながら山頂を目指すことができる短時間で登山可能なルートでした。

残念ながらこのルートは、豪雨により復旧の見込みが立たないほど途中の車道が崩落してしまい、現在は通ることができません。

静岡森林管理署は、この登山者にとって容易に近づき難い「光岳」の貴重な自然環境をしっかりと保全し、これからも次世代に受け継いでいきたいと思えます。

（静岡森林管理署 広報広聴連絡官 吉澤 英樹）

静岡県と長野県の県境に連なる南アルプス。その南端に位置する光岳（標高2,591㍎）は本州最南端のハイマツ林とライチョウの生育地として知られ、百名山制覇を目指す登山者にとって最終目標とされる山の一つです。

その理由は、他の百名山に比べて歩行距離が長く、登山者にとっては疲労度と難易度が高い点にあります。長野県側からは、易老渡を出発点とし易老岳、センジヶ原を経由して到達するルートが主流で、静岡県側からは畑薙第一ダムから茶臼岳を目指し、茶臼山小屋に一泊、さらに尾根伝いに南下して到達するルートとなっています。いずれも光岳山頂から南に抜ける道はなく、来た道をまた戻らなくてはなりません。

しかしその悪条件を克服した暁には、本州で唯一「原生自然環境保全地域」（人の活動によって影響を受けることなく原生状態を維持している土地等）に指定された千頭（てかりいづ）の山々を背景に、厳かに、白く輝く光岩を拝むことができます。ここにはタカネウスユキソウやミヤマダイヤモンドソウが可憐に咲き誇り、私達を歓迎してくれます。



隣のイザルガ岳からの朝焼け